

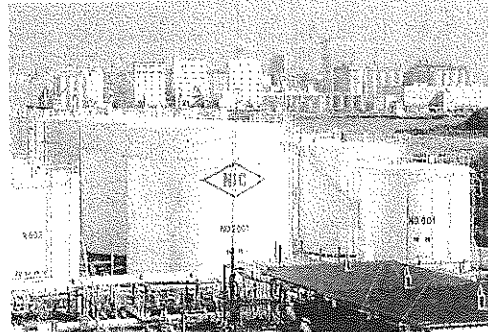
2011年 5月 18日

アイ
カ
ル
又
ミ
エ
ケ

防災対策見直しへ

千葉を再配置 地域連携含め総合的に

災害に強い物流を



千葉事業所では事務所棟の移設など再配置のほか、避難マニュアル作成などに取り組む

双日の子会社で液体化学
品物流を担当するエヌ
アイケミカル（千葉市美
浜区、木杵稔社長）は、東
日本大震災を契機に安全

対策を見直し、津波など
への対応を含めて防災体
制を総合的に見直す。こ
のため、千葉事業所では
順延してきた再配置計画

を復活、具体化する。事
業所内の事務所棟を移設
し、空いたスペースをド
ラム充填場などに活用す
る。今回の地震や東北地
区の津波をどこまで想定
材料に取り入れるかは今
後検討するが、避難マニ
ュアルの作成など地域を
含めた総合的な防災対策
を検討していく。

エヌアイケミカルの本
社・千葉事業所は、双日
グループの東京湾・千葉
側の主力拠点で、液体化
学品のタンクターミナ
ル、物流基地としての役
割を担う。現在、ステン
レスタンクを含め30基

フル稼働状態にある。今
回の震災ではほとんど被
害が発生せず、その後の
再開もスムーズに行われ
た。しかし、今回の震災
を契機に10基を超える津
波が発生した場合どう対
応するか、総合的な防災
対策の検討も迫られてい
る。

このため、千葉事業所
の再配置計画を復活、再
検討に入った。事務所棟
を移設・新設し、空いた
スペースを活用したロー
リーステーション、ドラ
ム充填場を新設、能力拡
大と効率化を進める。高
台に相当する避難所を設
けるなど新たな構想も加
える。同時に、防災対策
では地元と協力し避難マ

ニユアルの作成や地域と
の連携による対応を進め
る。防波堤についても、
現在の6基をより高くす
るなど地域と連携して取
り組む。高台の避難所確
保では、どこまで想定高
さを取り入れるか原資の
問題もあり、総合的な判
断のなかで最善手法を確
立していく方針。